



**青森県感染症発生情報  
(2025年第49週)**

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenko/eisei/infection-survey.html>

**I 第49週の発生動向 (2025/12/1~2025/12/7)**

- インフルエンザについては、すべての保健所管内で警報が継続しています。引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、ワクチン接種を含めた基本的な感染対策の徹底をお願いします。
- 水痘については、三戸・八戸市保健所管内の定点当たり報告数が新たに注意報レベルとなりました。一方、上北保健所管内及び下北保健所管内の注意報は解除となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「侵襲性髄膜炎菌感染症」です。最終ページに掲載しています。

**II 第49週五類定点把握対象疾患**

※記載データは、速報値です。

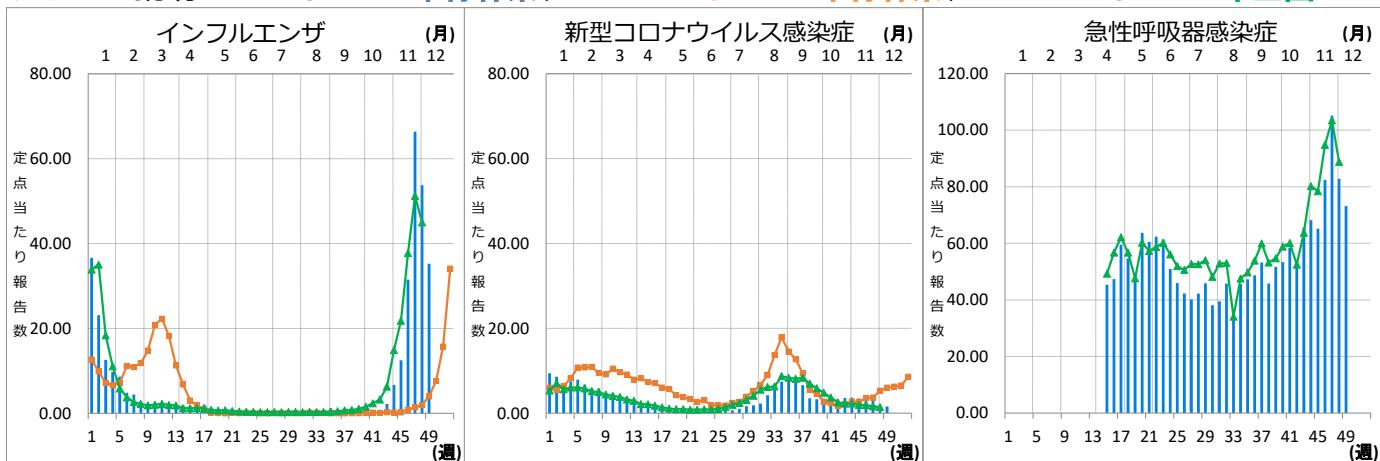
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況TOPページをご覧ください。

■は警報、■は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性呼吸器感染症	インフルエンザ	439	39.91	217	21.70	453	45.30	181	30.17	390	43.33	153	25.50	1833	35.25	-962
	新型コロナウイルス感染症	14	1.27	26	2.60	7	0.70	4	0.67	20	2.22	11	1.83	82	1.58	-6
	急性呼吸器感染症	1192	108.36	567	56.70	553	55.30	327	54.50	776	86.22	389	64.83	3804	73.15	-502
小児科	RSウイルス感染症			3	0.50	1	0.14	8	1.60	2	0.33	1	0.25	15	0.44	2
	咽頭結膜熱	2	0.33	1	0.17	2	0.29	2	0.40	1	0.17	1	0.25	9	0.26	-1
	A群溶血性レサ球菌咽頭炎	3	0.50	4	0.67	3	0.43	1	0.20	7	1.17	3	0.75	21	0.62	-1
	感染性胃腸炎	12	2.00	9	1.50	29	4.14	15	3.00	1	0.17	1	0.25	67	1.97	9
	水痘	3	0.50	2	0.33	7	1.00			4	0.67	1	0.25	17	0.50	-3
	手足口病	1	0.17	1	0.17									2	0.06	-2
	伝染性紅斑							2	0.40					2	0.06	1
	突発性発しん	1	0.17	1	0.17	3	0.43			1	0.17			6	0.18	0
眼科	ヘルパンギーナ	4	0.67											4	0.12	-1
	流行性耳下腺炎															0
基幹	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎					1	0.50			1	0.50			2	0.22	-2
マニラ	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎					1	1.00	2	2.00			3	3.00	6	1.00	-3
	無菌性髄膜炎															0

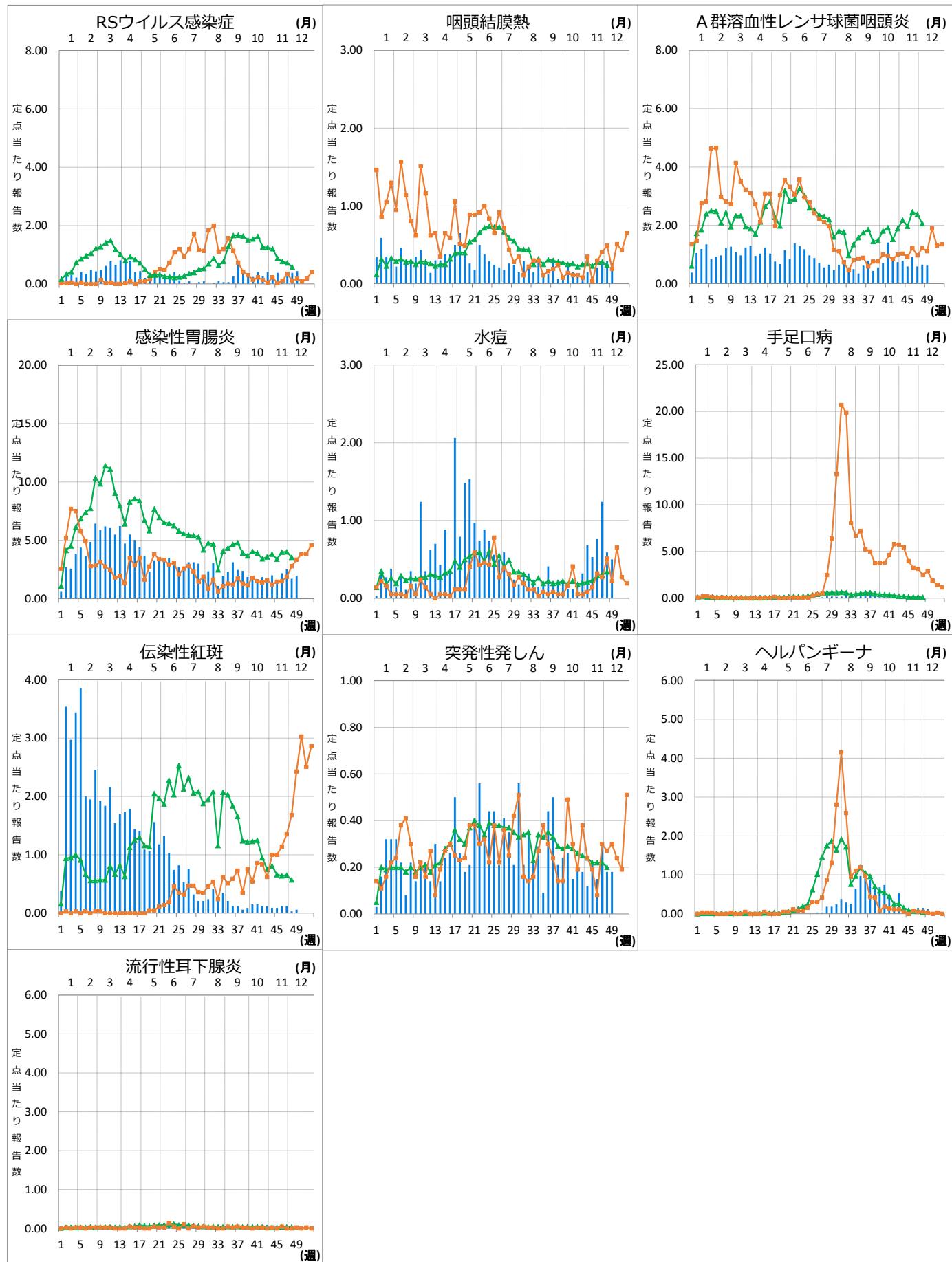
**III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2025年第49週、ただし全国は前週)**

グラフの説明 ——————は2025年青森県、—————■は2024年青森県、▲——▲は2025年全国

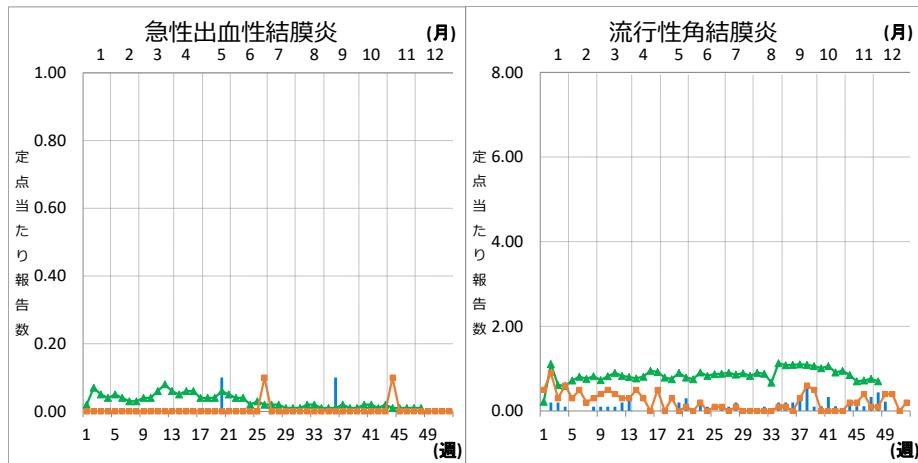


#### IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025年第49週、ただし全国は前週）

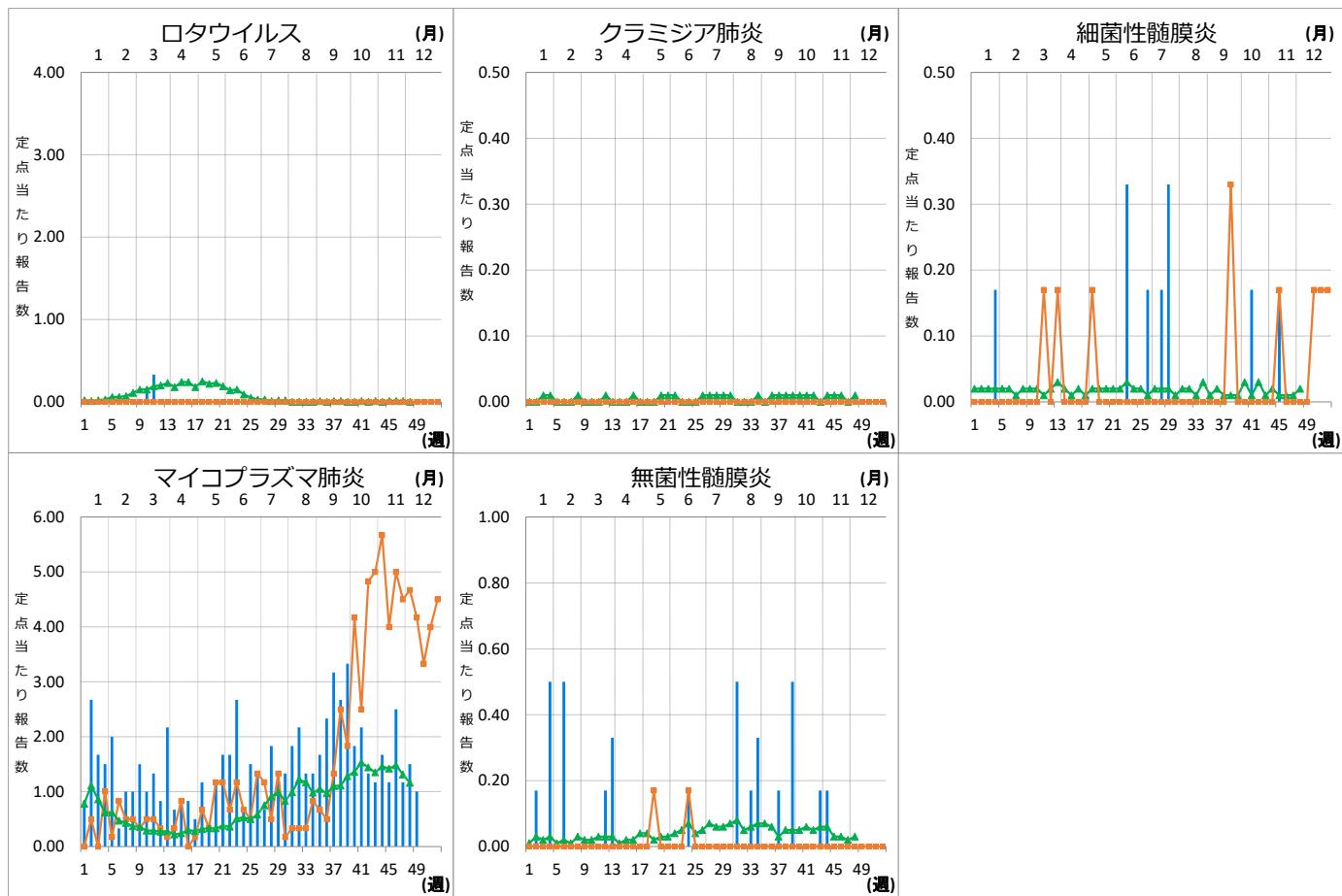
グラフの説明  は 2025 年青森県、 は 2024 年青森県、 は 2025 年全国



**V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025年第49週、ただし全国は前週）**  
**グラフの説明**—は2025年青森県、■—■は2024年青森県、▲—▲は2025年全国



**VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025年第49週、ただし全国は前週）**  
**グラフの説明**—は2025年青森県、■—■は2024年青森県、▲—▲は2025年全国



## VII 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

### (1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025年第42~49週)

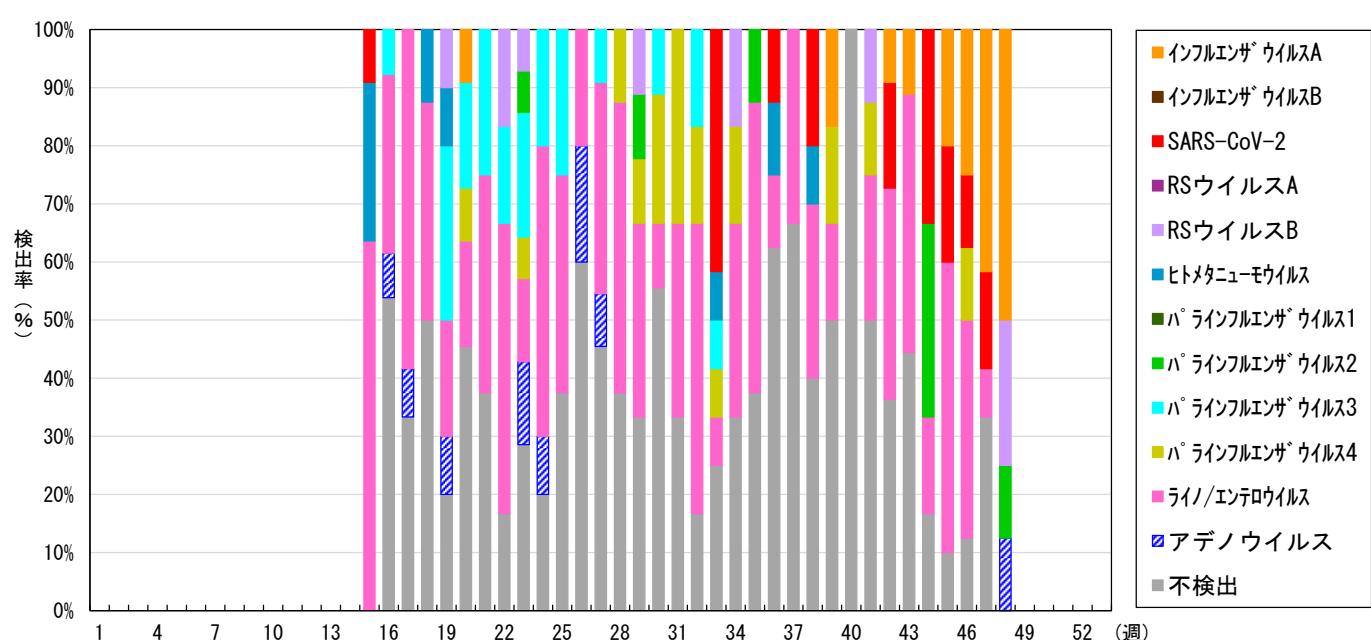
急性呼吸器感染症	2025年							
	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週
提出検体数	11	9	5	10	7	10	8	8
インフルエンザウイルスA	1	1	0	2	2	5	4	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	2	0	2	2	1	2	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	2
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	2	0	0	0	0	1
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	1	0	0	
ライノ／エンテロウイルス	4	4	1	5	3	1	0	
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	1
不検出	4	4	1	1	1	4	0	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	8

※第44週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザウイルス2及びライノ／エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第46週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザウイルス4及びライノ／エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第47週に提出された検体のうち、インフルエンザウイルスA及びライノ／エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体、インフルエンザウイルスA及びSARS-CoV-2が重複して検出されたものが1検体ありました。

### (2) 検出された病原体の週別推移 (2025年第15週～)



## VIII 全数把握対象疾患発生状況（第 49 週）

- ・結核（二類感染症）：青森市 2 人 (2025 年計： 107 人)
- ・レジオネラ症（四類感染症）：八戸市 1 人 (2025 年計： 14 人)
- ・梅毒（五類感染症）：青森市 1 人、中南 1 人、八戸市 2 人 (2025 年計： 31 人)
- ・百日咳（五類感染症）：青森市 1 人、八戸市 2 人、下北 1 人 (2025 年計： 760 人)

## IX 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 46 週～2025 年第 49 週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
46	結核1人 水痘(入院例)1人 百日咳1人	腸管出血性大腸菌感 染症1人 劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人 百日咳1人	結核1人			
47	梅毒2人 百日咳3人		結核1人 梅毒1人	レジオネラ症1人	百日咳1人	
48	結核1人 レジオネラ症1人	結核1人 梅毒3人	結核1人 百日咳2人		梅毒1人	
49	結核2人 梅毒1人 百日咳1人	梅毒1人	レジオネラ症1人 梅毒2人 百日咳2人			百日咳1人

第 48 週に、梅毒の届出が中南保健所管内で 2 件ありましたので追加しました。

## X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国

(2025年第1週～第48週までの累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	エムポックス
累積報告数	13049	4	53	4095	31	8	529	126	26	14
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チケンギニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱
累積報告数	11	6	6	1	188	2	20	159	157	668
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類
疾病名	日本脳炎	ブルセラ症	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎
累積報告数	3	1	1	20	18	1	2252	59	405	229
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスボリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症
累積報告数	1125	34	544	23	163	1261	788	33	605	74
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	ハンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシнетバクター感染症
累積報告数	3109	608	12587	160	86	81	87342	11	251	9

青森県

(2025年第1週～第49週までの累計)

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎
累積報告数	107	37	1	17	1	1	14	1	9	1
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	破傷風	百日咳	
累積報告数	4	6	2	4	15	1	31	1	760	

## XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

## XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025年第49週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第49週	報告なし		

2025年報告件数及び症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)		
		1~5週	6~9週	10~13週	14~17週	18~22週	23~26週	27~31週	32~35週	36~39週	40~44週	45~48週	49週	50週	51週	52週
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	発症者数	7	70	69	78	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	35
	発症者数	74	228	136	128	25	50	22	13	0	0	0	0	0	0	676
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7
	発症者数	0	37	25	10	5	0	11	0	0	0	0	0	0	0	88
その他施設	件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	発症者数	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10
計(月別)	件数	5	16	14	12	3	4	2	1	0	0	0	0	0	0	57
	発症者数	81	335	230	216	41	60	33	13	0	0	0	0	0	0	1009

## 感染症の窓

侵襲性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌が髄液や血液などの無菌部位から検出される感染症です。

主な症状は、突然の発熱、頭痛、意識障害、けいれんなどで、重症化すると紫斑の出現、ショックに進展し、死に至ることもあります。

現行の届出基準が適用された2017年以降の全国における年間累積報告数の推移は図のとおりです。新型コロナウイルス感染症流行の影響がみられる2020～2023年を除くと、年間累積報告数は増加傾向にあり、2025年は第48週現在で、これまでに最多の74人が報告されています。致死率が約10%、治療しなければ50%に達すると言われていますので、注意が必要です。

日本では稀な疾患ですが、世界的にはサハラ以南のアフリカ中央部において乾季の時期に多く、アメリカやイギリスなどの先進国でも流行がみられます。

髄膜炎菌は、12の血清群に分類され、このうち侵襲性感染のほとんどはA、B、C、Y、Wの5つの血清群によるものです。国内では、A、C、Y、Wの4つの血清群を含む4価ワクチンを任意接種として受けることができます。本疾患の流行地域へ渡航する際は、かかりつけ医に相談の上、ワクチン接種を検討しましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞[感染症法に基づく侵襲性髄膜炎菌感染症の届出状況のまとめ（更新）、2013年4月～2023年6月（国立感染症研究所HP）](#)

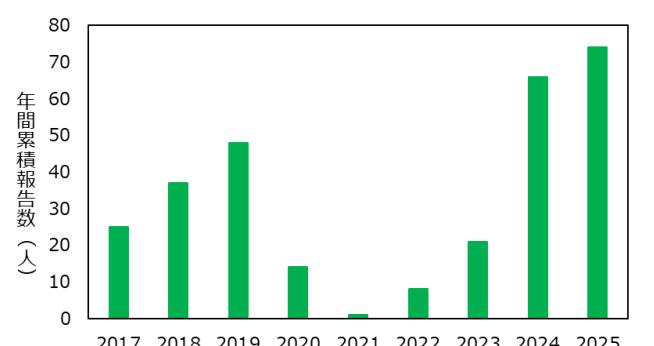


図 全国における年間累積報告数の推移  
(2025年は第48週までの報告数)